

注3

大学番号：070

[令和2年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前伺い

愛媛大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 愛媛大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部経営企画課

職名・氏名 経営企画課長 河野 太志

電話番号 089-927-9012

（夜間） 089-927-9012

F A X 089-927-9025

e-mail hyouka@stu.ehime-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

教育学研究科

<教育実践高度化専攻>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	32

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 愛媛大学

(2) 大学名

愛媛大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒790-8577

愛媛県松山市文京町3番

(愛媛県松山市道後樋又10番13号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(オオハシ ユウイチ) 大橋 裕一 (平成27年4月)		
理事	(ユゲ トシヒロ) 弓削 俊洋 (平成27年4月)		
研究科長	(コスケガワ ガンタ) 小助川 元太 (令和2年4月)		
専攻長	(ツユグチ ケンジ) 露口 健司 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
教育学研究科 教育実践高度化専攻 教職修士 (専門職)	教員養成関係	年 2	人 40	年次 人 0	人 80	基礎となる学部等 教育学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40 () [-]	()	()	()	1.07 倍	-	
志願者数	52 () []	() []	() []	() []			
受験者数	52 () []	() []	() []	() []			
合格者数	46 () []	() []	() []	() []			
B 入学者数	43 () []	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	1.07						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	43 [-]	- [-]			
2年次					
3年次					
4年次					
計	43 [-] (-)	-	[] ()	()	

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	43人	0人	令和2年度	0人	0人	
令和3年度	-人	-人	令和2年度	-人	-人	
			平成29年度	-人	-人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学

・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{43} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学研究科 教育実践高度化専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通基礎科目	授業研究の開発実践	1前	2			2	1					
	授業開発の理論と実際	1前	2			3	1					
	心の教育の理論と実践	1前	2			3						
	授業における学習支援と指導法の事例分析	1前	2			1	2					
	ICT教育の実践研究	1前	2			2	1	1				1
	小学校英語教育の実践研究	1前	2			1	1					
	生徒指導に関する領域	子どもの発達と感情	1前	2			1					
	生徒指導・進路指導の実践研究	1前	2			2	1					
	子ども理解の心理アプローチ(調査法)	1前	2			1	1					
	特別支援教育の理論と実践	1前	2			1	3					2
	学級経営の理論と実践	1前	2			2	1					
	学校組織のリーダーシップ	1前	2			1						
	データを活用した学校経営(調査法)	1前	2			1	1					
	子どもの資質・能力を高める学校経営論	1前	2			2						1
	学校教育と教員の在り方に関する領域	教員の成長と職業倫理	1前	2			2					
	教師のライフヒストリー省察と資質能力開発	1前	2			1						
	学校・家庭・地域の連携論	1前	2			2						1
	愛媛の教育改革	1前	2			3						
小計(18科目)		—	0	36	0	14	8	1	0	0	4	
(リーダーシップ開発コース)	エビデンスに基づく教育政策・事業分析	1後	2			1	1					
	人材育成演習	1後	2			2						
	教員研修プログラム開発演習	1後	2			2						
	カリキュラムマネジメントと校内研修	1後	2			2					1	
	信頼を構築する学校危機管理	1後	2			1					1	
	地域とともにある学校の経営	1後	2			2	2					
	学校改善の実践的研究	1後	2			1	1					
	学校改善課題研究1	1前	2			7	2					
	学校改善課題研究2	1後	2			7	2					
小計(9科目)		—	0	18	0	7	2	0	0	0	2	
(教育実践開発コース)	教材開発高度化演習	1後	2			5	1					
	特別な教育ニーズへの対応	1後	2			2						
	学級経営の事例研究	1後	2			2						
	教育課題解決のための教育プログラム開発演習	1後	2			1	1					
	児童生徒・保護者の教育相談実践	1後	2			1					1	
	集団づくりの道徳論的アプローチ	1後	2			2						
	生徒指導機能を生かした学習指導	1後	2			2						
	子どもの問題行動の事例研究	1後	2			1						
	小計(9科目)		—	0	18	0	7	2	0	0	0	2

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通基礎科目	授業研究の開発実践	1前	2			2	1					
	授業開発の理論と実際	1前	2			3	1					
	心の教育の理論と実践	1前	2			3						
	授業における学習支援と指導法の事例分析	1前	2			1	2					
	ICT教育の実践研究	1前	2			2	1	1				1
	小学校英語教育の実践研究	1前	2			1	1					
	生徒指導に関する領域	子どもの発達と感情	1前	2			1					
	生徒指導・進路指導の実践研究	1前	2			2	1					
	子ども理解の心理アプローチ(調査法)	1前	2			2						
	特別支援教育の理論と実践	1前	2			3	1					2
	学級経営の理論と実践	1前	2			2	1					
	学校組織のリーダーシップ	1前	2			1						
	データを活用した学校経営(調査法)	1前	2			1	1					
	子どもの資質・能力を高める学校経営論	1前	2			2						1
	学校教育と教員の在り方に関する領域	教員の成長と職業倫理	1前	2			2					
	教師のライフヒストリー省察と資質能力開発	1前	2			1						
	学校・家庭・地域の連携論	1前	2			2						1
	愛媛の教育改革	1前	2			3						
小計(18科目)		—	0	36	0	16	6	1	0	0	4	
(リーダーシップ開発コース)	エビデンスに基づく教育政策・事業分析	1後	2			1	1					
	人材育成演習	1後	2			2						
	教員研修プログラム開発演習	1後	2			2						
	カリキュラムマネジメントと校内研修	1後	2			2					1	
	信頼を構築する学校危機管理	1後	2			1					1	
	地域とともにある学校の経営	1後	2			2	2					
	学校改善の実践的研究	1後	2			1	1					
	学校改善課題研究1	1前	2			7	2					
	学校改善課題研究2	1後	2			7	2					
小計(9科目)		—	0	18	0	7	2	0	0	0	2	
(教育実践開発コース)	教材開発高度化演習	1後	2			5	1					
	特別な教育ニーズへの対応	1後	2			2						
	学級経営の事例研究	1後	2			2						
	教育課題解決のための教育プログラム開発演習	1後	2			1	1					
	児童生徒・保護者の教育相談実践	1後	2			1					1	
	集団づくりの道徳論的アプローチ	1後	2			2						
	生徒指導機能を生かした学習指導	1後	2			2						
	子どもの問題行動の事例研究	1後	2			1						
	小計(9科目)		—	0	18	0	7	2	0	0	0	2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(教育実践開発コース)	(発展科目)	生徒指導と特別活動の実践研究	1後	2		1	1					
		進路指導の実践研究	1後	2		1	1					
		デジタル教材開発とその利用方法	1後	2			1					1
		ソフトウェアを活用した校務支援	1後	2			1					1
	(課題研究)	プログラミングを活用した授業実践	1後	2			1	1				
		ICTを活用した授業実践開発	1後	2			1	1				
		授業改善課題研究1	1前	2		5	4	1				1
		授業改善課題研究2	1後	2		5	4	1				1
		授業改善課題研究3	2通	4		5	4	1				1
	小計(17科目)	—	0	36	0	10	7	1	0	0	2	
コース別選択科目(教科領域コース)	(発展科目)	教科指導力高度化演習基礎	1前	2		6	4					
		教科指導力高度化演習発展	1後	2		6	4					
		教材研究の基礎理論(現代の国語)	1前	2								3
		教材の開発と実践(現代の国語)	1後	2								3
		教材研究の基礎理論(言語文化)	1前	2		1						2
		教材の開発と実践(言語文化)	1後	2		1						2
		教材研究の基礎理論(書写書道)	1前	2								1
		教材の開発と実践(書写書道)	1後	2								1
		教材研究の基礎理論(歴史)	1前	2				1				2
		教材の開発と実践(歴史)	1後	2				1				2
		教材研究の基礎理論(地理)	1前	2				1				2
		教材の開発と実践(地理)	1後	2				1				2
		教材研究の基礎理論(公民)	1前	2		1						3
		教材の開発と実践(公民)	1後	2		1						3
		教材研究の基礎理論(英語学・言語科学)	1前	2								2
		教材の開発と実践(英語学・言語科学)	1後	2								2
		教材研究の基礎理論(第二言語習得)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(第二言語習得)	1後	2		1						1
		教材研究の基礎理論(代数)	1前	2		2						2
		教材の開発と実践(代数)	1後	2		2						2
		教材研究の基礎理論(幾何)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(幾何)	1後	2		1						1
		教材研究の基礎理論(解析)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(解析)	1後	2		1						1
		教材研究の基礎理論(応用数学)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(応用数学)	1後	2		1						1
		教材研究の基礎理論(物理)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(物理)	1後	2		1	1					2
		教材研究の基礎理論(化学)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(化学)	1後	2		1						1
教材研究の基礎理論(生物)	1前	2			1					1		
教材の開発と実践(生物)	1後	2			1					1		
教材研究の基礎理論(地学)	1前	2			1					1		
教材の開発と実践(地学)	1後	2			1					1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(教育実践開発コース)	(発展科目)	生徒指導と特別活動の実践研究	1後	2		1	1					
		進路指導の実践研究	1後	2		1	1					
		デジタル教材開発とその利用方法	1後	2			1					1
		ソフトウェアを活用した校務支援	1後	2			1					1
	(課題研究)	プログラミングを活用した授業実践	1後	2			1	1				
		ICTを活用した授業実践開発	1後	2			1	1				
		授業改善課題研究1	1前	2		5	4	1				1
		授業改善課題研究2	1後	2		5	4	1				1
		授業改善課題研究3	2通	4		5	4	1				1
	小計(17科目)	—	0	36	0	11	6	1	0	0	2	
コース別選択科目(教科領域コース)	(発展科目)	教科指導力高度化演習基礎	1前	2		6	4					
		教科指導力高度化演習発展	1後	2		6	4					
		教材研究の基礎理論(現代の国語)	1前	2								3
		教材の開発と実践(現代の国語)	1後	2								3
		教材研究の基礎理論(言語文化)	1前	2		1						2
		教材の開発と実践(言語文化)	1後	2		1						2
		教材研究の基礎理論(書写書道)	1前	2								1
		教材の開発と実践(書写書道)	1後	2								1
		教材研究の基礎理論(歴史)	1前	2					1			2
		教材の開発と実践(歴史)	1後	2					1			2
		教材研究の基礎理論(地理)	1前	2					1			2
		教材の開発と実践(地理)	1後	2					1			2
		教材研究の基礎理論(公民)	1前	2		1						3
		教材の開発と実践(公民)	1後	2		1						3
		教材研究の基礎理論(英語学・言語科学)	1前	2								2
		教材の開発と実践(英語学・言語科学)	1後	2								2
		教材研究の基礎理論(第二言語習得)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(第二言語習得)	1後	2		1						1
		教材研究の基礎理論(代数)	1前	2		2						2
		教材の開発と実践(代数)	1後	2		2						2
		教材研究の基礎理論(幾何)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(幾何)	1後	2		1						1
		教材研究の基礎理論(解析)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(解析)	1後	2		1						1
		教材研究の基礎理論(応用数学)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(応用数学)	1後	2		1						1
		教材研究の基礎理論(物理)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(物理)	1後	2		1				2		2
		教材研究の基礎理論(化学)	1前	2		1						1
		教材の開発と実践(化学)	1後	2		1						1
教材研究の基礎理論(生物)	1前	2			1					1		
教材の開発と実践(生物)	1後	2			1					1		
教材研究の基礎理論(地学)	1前	2			1					1		
教材の開発と実践(地学)	1後	2			1					1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース別選択科目（教科領域コース）	教材研究の基礎理論（電気）	1前	2			1	1						
	教材の開発と実践（電気）	1後	2			1	1						
	教材研究の基礎理論（機械）	1前	2				1				1		
	教材の開発と実践（機械）	1後	2				1				1		
	教材研究の基礎理論（材料加工）	1前	2				1				1		
	教材の開発と実践（材料加工）	1後	2				1				1		
	教材研究の基礎理論（スポーツ）	1前	2								2		
	教材の開発と実践（スポーツ）	1後	2			1	1						
	教材研究の基礎理論（健康）	1前	2								2		
	教材の開発と実践（健康）	1後	2				1				1		
	教材研究の基礎理論（食物）	1前	2				1				1		
	教材研究の基礎理論（被服）	1前	2				1				1		
	教材の開発と実践（食物・被服）	1後	2				1				2		
	教材研究の基礎理論（保育・家庭生活）	1前	2								2		
	教材の開発と実践（保育・家庭生活）	1後	2			1					1		
	教材研究の基礎理論（器楽）	1前	2								3		
	教材の開発と実践（器楽）	1後	2								3		
	教材研究の基礎理論（鑑賞・創作）	1前	2			1					2		
	教材の開発と実践（鑑賞・創作）	1後	2			1					2		
	教材研究の基礎理論（歌唱）	1前	2				1				2		
	教材の開発と実践（歌唱）	1後	2				1				2		
	教材研究の基礎理論（絵画・彫刻）	1前	2				1				2		
	教材の開発と実践（絵画・彫刻）	1後	2				1				2		
	教材研究の基礎理論（デザイン・工芸）	1前	2				1				2		
	教材の開発と実践（デザイン・工芸）	1後	2				1				2		
	教材研究の基礎理論（美術理論・美術史）	1前	2				1				1		
	教材の開発と実践（美術理論・美術史）	1後	2				1				1		
	（課題研究）	教材開発課題研究1	1前	2			6	4					
		教材開発課題研究2	1後	2			6	4					
		教材開発課題研究3	2通	4			6	4					
		小計(64科目)	—	0	130	0	10	9	2	0	0	40	
	コース別選択科目（特別支援教育コース）	特別支援教育総論	1前	2			1	3				2	
障害児の聴能の理論と実際		1後	2								1		
聴覚言語障害への心理学的対応		1後	2								1		
聴覚障害教育の理論と実践		1後	2				1						
聞こえの困難への教育的対応		1後	2				1						
認知機能の困難への心理的対応		1後	2			1							
運動機能の困難への心理的対応		1後	2				1						
保健医療福祉との連携と医療的対応		1後	2								1		
学校における支援体制		1後	2			1							
個別の指導計画の作成と実施		1後	2				1						
社会的自立・就労の指導		1後	2				2						
重複障害児の教育実践	1後	2				2							

区科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース別選択科目（教科領域コース）	教材研究の基礎理論（電気）	1前	2			1	1						
	教材の開発と実践（電気）	1後	2				1						
	教材研究の基礎理論（機械）	1前	2							1	1		
	教材の開発と実践（機械）	1後	2							1	1		
	教材研究の基礎理論（材料加工）	1前	2							1	1		
	教材の開発と実践（材料加工）	1後	2							1	1		
	教材研究の基礎理論（スポーツ）	1前	2								2		
	教材の開発と実践（スポーツ）	1後	2			1	1						
	教材研究の基礎理論（健康）	1前	2								2	1	
	教材の開発と実践（健康）	1後	2				1				1		
	教材研究の基礎理論（食物）	1前	2				1				1		
	教材研究の基礎理論（被服）	1前	2				1				1		
	教材の開発と実践（食物・被服）	1後	2				1				2		
	教材研究の基礎理論（保育・家庭生活）	1前	2								2		
	教材の開発と実践（保育・家庭生活）	1後	2			1					1		
	教材研究の基礎理論（器楽）	1前	2								3		
	教材の開発と実践（器楽）	1後	2								3		
	教材研究の基礎理論（鑑賞・創作）	1前	2			1					2		
	教材の開発と実践（鑑賞・創作）	1後	2			1					2		
	教材研究の基礎理論（歌唱）	1前	2				1				2		
	教材の開発と実践（歌唱）	1後	2				1				2		
	教材研究の基礎理論（絵画・彫刻）	1前	2				1				2		
	教材の開発と実践（絵画・彫刻）	1後	2				1				2		
	教材研究の基礎理論（デザイン・工芸）	1前	2				1				2		
	教材の開発と実践（デザイン・工芸）	1後	2				1				2		
	教材研究の基礎理論（美術理論・美術史）	1前	2				1				1		
	教材の開発と実践（美術理論・美術史）	1後	2				1				1		
	（課題研究）	教材開発課題研究1	1前	2			6	4					
		教材開発課題研究2	1後	2			6	4					
		教材開発課題研究3	2通	4			6	4					
		小計(64科目)	—	0	130	0	11	8	2	0	0	39	
	コース別選択科目（特別支援教育コース）	特別支援教育総論	1前	2			3	1				2	
障害児の聴能の理論と実際		1前	2								1		
聴覚言語障害への心理学的対応		1後	2								1		
聴覚障害教育の理論と実践		1前	2			1							
聞こえの困難への教育的対応		1後	2			1							
認知機能の困難への心理的対応		1前	2			1							
運動機能の困難への心理的対応		1前	2							1			
保健医療福祉との連携と医療的対応		1前	2								1		
学校における支援体制		1後	2			1							
個別の指導計画の作成と実施		1後	2				1						
社会的自立・就労の指導		1後	2				2						
重複障害児の教育実践	1前	2			1	1							

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース別選択科目(特別支援教育コース)	読み書き困難への対応	1後		2			2						
	計算・推論困難への対応	1後		2		1	1						
	行動上の問題への対応	1後		2								1	
	アセスメントの方法と総合的解釈	1前		2		2	1						
	特別支援教育課題研究1	1前		2		1	3					2	
	特別支援教育課題研究2	1後		2		1	3					2	
	特別支援教育課題研究3	1通		4		1	3					2	
	小計(19科目)	—	0	40	0	2	3	0	0	0	0	2	
	実習科目	異校種実習	1前		2		20	12	2				
		小規模校実習	1前		2		20	12	2				
研究指定校実習		1後		2		20	12	2					
連携校実習1		1通		4		20	12	2					
連携校実習2		2通		4		20	12	2					
連携校実習3		2後		2		20	12	2					
特別支援教育連携校実習1		1通		4		1	3					2	
特別支援教育連携校実習2		2前		4		1	3					2	
特別支援教育連携校実習3		2後		2		1	3					2	
小計(9科目)		—	0	26	0	21	15	2	0	0	0	2	
合計(136科目)	—	0	286	0	21	15	2	0	0	0	46		
卒業要件及び履修方法													
<p>教育実践高度化専攻の修了要件は、共通科目20単位、選択科目16単位以上、学校における実習科目10単位、合計46単位以上修得することとする。 共通科目は、各領域から2単位以上、合計20単位以上を修得する。 課題研究について、リーダーシップ開発コースの履修者は「学校改善課題研究1・2」、教育実践開発コースの履修者は「授業改善課題研究1・2・3」、教科領域コースの履修者は「教材開発課題研究1・2・3」、特別支援教育コースの履修者は「特別支援教育課題研究1・2・3」の中から履修する。 実習科目について、異校種実習、小規模校実習、研究指定校実習は、専攻共通の実習科目であり、いずれも選択科目である。リーダーシップ開発コース、教育実践開発コース、教科領域コースの履修者は連携校実習1を必修科目、連携校実習2・3を選択科目とする。特別支援教育コースの履修者は、特別支援教育連携校実習1を必修科目、特別支援教育連携校実習2・3を選択科目とする。</p>													

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース別選択科目(特別支援教育コース)	読み書き困難への対応	1後		2			1	1					
	計算・推論困難への対応	1後		2		1	1						
	行動上の問題への対応	1後		2								1	
	アセスメントの方法と総合的解釈	1前		2		2	1						
	特別支援教育課題研究1	1前		2		3	1					2	
	特別支援教育課題研究2	1後		2		3	1					2	
	特別支援教育課題研究3	1通		4		3	1					2	
	小計(19科目)	—	0	40	0	3	1	0	0	0	0	2	
	実習科目	異校種実習	1前		2		21	11	2				
		小規模校実習	1前		2		21	11	2				
研究指定校実習		1後		2		21	11	2					
連携校実習1		1通		4		21	11	2					
連携校実習2		2通		4		21	11	2					
連携校実習3		2後		2		21	11	2					
特別支援教育連携校実習1		1通		4		3	1					2	
特別支援教育連携校実習2		2前		4		3	1					2	
特別支援教育連携校実習3		2後		2		3	1					2	
小計(9科目)		—	0	26	0	24	12	2	0	0	0	2	
合計(136科目)	—	0	286	0	24	12	2	0	0	0	46		
卒業要件及び履修方法													
<p>教育実践高度化専攻の修了要件は、共通科目20単位、選択科目16単位以上、学校における実習科目10単位、合計46単位以上修得することとする。 共通科目は、各領域から2単位以上、合計20単位以上を修得する。 課題研究について、リーダーシップ開発コースの履修者は「学校改善課題研究1・2」、教育実践開発コースの履修者は「授業改善課題研究1・2・3」、教科領域コースの履修者は「教材開発課題研究1・2・3」、特別支援教育コースの履修者は「特別支援教育課題研究1・2・3」の中から履修する。 実習科目について、異校種実習、小規模校実習、研究指定校実習は、専攻共通の実習科目であり、いずれも選択科目である。リーダーシップ開発コース、教育実践開発コース、教科領域コースの履修者は連携校実習1を必修科目、連携校実習2・3を選択科目とする。特別支援教育コースの履修者は、特別支援教育連携校実習1を必修科目、特別支援教育連携校実習2・3を選択科目とする。</p>													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・専門教育科目の教員配置の見直しのため、「生徒指導・進路指導の実践研究」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「子ども理解の心理アプローチ（調査法）」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「教授2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別支援教育の理論と実践」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3、兼任・兼任2」から「教授3、准教授1、兼任・兼任2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別な教育ニーズへの対応」の専任教員等の配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「児童生徒・保護者の教育相談実践」の専任教員等の配置を「准教授1、兼任・兼任1」から「教授1、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「教材の開発と実践（物理）」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「教授2」に変更。
- ・教員の産休・育休に伴い、「教材研究の基礎理論（健康）」の兼任・兼任の配置を「2」から「1」に変更。
- ・教員の産休・育休に伴い、「教材の開発と実践（健康）」の兼任・兼任の配置を「1」から「0」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別支援教育総論」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3、兼任・兼任2」から「教授3、准教授1、兼任・兼任2」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「障害児の聴能の理論と実際」の開講時期を後学期から前学期に変更。
- ・教育効果を高めるため、「聴覚障害教育の理論と実践」の開講時期を後学期から前学期に変更。
- ・教員昇任に伴い、「聴覚障害教育の理論と実践」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「聞こえの困難への教育的対応」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「認知機能の困難への心理的対応」の開講時期を後学期から前学期に変更。
- ・教育効果を高めるため、「運動機能の困難への心理的対応」の開講時期を後学期から前学期に変更。
- ・教育効果を高めるため、「保健医療福祉との連携と医療的対応」の開講時期を後学期から前学期に変更。
- ・教員昇任に伴い、「個別の指導計画の作成と実施」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「社会的自立・就労の指導」の専任教員等の配置を「准教授2」から「教授2」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「重複障害児の教育実践」の開講時期を後学期から前学期に変更。
- ・教員昇任に伴い、「重複障害児の教育実践」の専任教員等の配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「読み書き困難への対応」の専任教員等の配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別支援教育課題研究1」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3、兼任・兼任2」から「教授3、准教授1、兼任・兼任2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別支援教育課題研究2」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3、兼任・兼任2」から「教授3、准教授1、兼任・兼任2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別支援教育課題研究3」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3、兼任・兼任2」から「教授3、准教授1、兼任・兼任2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「異校種実習」の専任教員等の配置を「教授20、准教授12、講師2」から「教授21、准教授11、講師2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「小規模校実習」の専任教員等の配置を「教授20、准教授12、講師2」から「教授21、准教授11、講師2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「研究指定校実習」の専任教員等の配置を「教授20、准教授12、講師2」から「教授21、准教授11、講師2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「連携校実習1」の専任教員等の配置を「教授20、准教授12、講師2」から「教授21、准教授11、講師2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「連携校実習2」の専任教員等の配置を「教授20、准教授12、講師2」から「教授21、准教授11、講師2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「連携校実習3」の専任教員等の配置を「教授20、准教授12、講師2」から「教授21、准教授11、講師2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別支援教育連携校実習1」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3、兼任・兼任2」から「教授3、准教授1、兼任・兼任2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別支援教育連携校実習2」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3、兼任・兼任2」から「教授3、准教授1、兼任・兼任2」に変更。
- ・教員昇任に伴い、「特別支援教育連携校実習3」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3、兼任・兼任2」から「教授3、准教授1、兼任・兼任2」に変更。

- ・専 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	136 科目	0 科目	136 科目	0 科目	136 科目	0 科目	136 科目	
				[-]	[-]	[-]	[-]	

- （注）・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">該当なし</div>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{136} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	316,958 m ²	m ²	m ²	316,958 m ²			
	運動場用地	79,745 m ²	m ²	m ²	79,745 m ²			
	小 計	396,703 m ²	m ²	m ²	396,703 m ²			
	そ の 他	4,257,546 m ²	m ²	m ²	4,257,546 m ²			
	合 計	4,654,249 m ²	m ²	m ²	4,654,249 m ²			
(2) 校 舎	専 用	219,996m ²	m ²	共用する他の 学校等の専用	計			
	(m ²)	(m ²)	(m ²)	(m ²)	(m ²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 施設整備によるもの (2)		
	125 117室	109 105室	581 588室	16 18室 (補助職員 0 人)	6 8室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	教育学研究科	教育実践高度化専攻		38	室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体での共用部分 を含む 重複図書及び不用図書の 除籍等によるもの (2)
	教育学研究科 教育実践高度化 専攻	1,133,725 [326,560] (1,129,661 4,133,725 [324,233 326,560])	23,326 [7,552] (23,286 23-326 [7,487 7,552])	3,631 [2,155] (3,616 3-631 [2,098 2,155])	6,796 (6,875 6,796)	11,452 (11,696 11,452)	1 (1)	
	計	1,133,725 [326,560] (1,129,661 4,133,725 [324,233 326,560])	23,326 [7,552] (23,286 23-326 [7,487 7,552])	3,631 [2,155] (3,616 3-631 [2,098 2,155])	6,796 (6,875 6,796)	11,452 (11,696 11,452)	1 (1)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 施設整備によるもの (2)		
	10,615 m ²	979 981		786,305				
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	10,486 m ²	武道場1, 弓道場1, テニスコート22面, 水泳プール4基						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	愛媛大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
法文学部	4	365	3年次30	1,520	—	1.03	1.01	—	昭和43	愛媛県松山市文京町3番	
人文社会学科 昼間主コース	4	275	3年次10	1,120	学士 (法学・政策学、学術、人文学)	1.03	1.01	—	平成28	同上	
人文社会学科 夜間主コース	4	90	3年次20	400	学士 (法学・政策学、人文学)	1.04	1.00	—	平成28	同上	
教育学部	4	160	—	640	—	1.03	1.01	—	昭和24	愛媛県松山市文京町3番	
学校教育教員養成課程	4	160	—	640	学士 (教育学)	1.04	1.01	—	平成11	同上	令和2年度より入学定員増(20)
特別支援教育教員養成課程	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	—	—	平成20	同上	令和2年度より学生募集停止
社会共創学部	4	180	—	720	—	1.05	1.05	—	平成28	愛媛県松山市文京町3番	
産業マネジメント学科	4	70	—	280	学士 (社会共創学)	1.06	1.07	—	平成28	同上	
産業イノベーション学科	4	25	—	100	学士 (社会共創学)	1.05	1.00	—	平成28	同上	
環境デザイン学科	4	35	—	140	学士 (社会共創学)	1.03	1.02	—	平成28	同上	
地域資源マネジメント学科	4	50	—	200	学士 (社会共創学)	1.08	1.06	—	平成28	同上	
理学部	4	225	—	900	—	1.07	1.10	—	昭和43	愛媛県松山市文京町2番5号	
理学科	4	225	—	900	学士 (理学)	1.07	1.10	平成31	平成31	同上	
数学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	—	—	平成17	同上	平成31年度より学生募集停止
物理学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	—	—	平成17	同上	平成31年度より学生募集停止
化学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	—	—	平成17	同上	平成31年度より学生募集停止
生物学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	—	—	平成17	同上	平成31年度より学生募集停止
地球科学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	—	—	平成17	同上	平成31年度より学生募集停止
医学部	—	170	2年次5 3年次10	945	—	—	—	—	昭和48	愛媛県東温市志津川454	
医学科	6	110	2年次5	685	学士 (医学)	1.00	1.00	—	昭和48	同上	
看護学科	4	60	3年次10	260	学士 (看護学)	1.00	1.00	—	平成6	同上	

大学の名称	愛媛大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
工学部	4	500	3年次10	2,020	—	1.01	1.02	—	昭和24	愛媛県松山市文京町3番	
工学科	4	500	3年次10	2,020	学士(工学)	1.01	1.02	平成31	平成31	同上	
機械工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成3	同上	平成31年度より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成3	同上	平成31年度より学生募集停止
環境建設工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成8	同上	平成31年度より学生募集停止
機能材料工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成8	同上	平成31年度より学生募集停止
応用化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成3	同上	平成31年度より学生募集停止
情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成3	同上	平成31年度より学生募集停止
農学部	4	170	3年次10	700	—	1.05	1.04	—	昭和29	愛媛県松山市榑味3丁目5番7号	
食料生産学科	4	70	3年次5	290	学士(農学)	1.06	1.05	—	平成28	同上	
生命機能学科	4	45	3年次2	184	学士(農学)	1.04	1.04	—	平成28	同上	
生物環境学科	4	55	3年次3	226	学士(農学)	1.04	1.01	—	平成28	同上	
大学全体	—	1,770	2年次5 3年次60	7,445	—	—	—	—	—	—	

大学の名称	愛媛大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
人文社会科学部 <u>人文社会科学部</u> (修士課程)	2	20	—	40	—	—	—	令和2	令和2	愛媛県松山市文京町3番	
法文学専攻	2	12	—	24	修士 (法学、人文 学)	0.75	0.75	令和2	令和2	同上	
産業システム創成専攻	2	8	—	16	修士 (経済学、学 術)	1.00	1.00	令和2	令和2	同上	
法文学部 <u>法文学部</u> (修士課程)	2	—	—	—	—	—	—	—	平成10	愛媛県松山市文京町3番	令和2年度より学生募集停止
総合法政策専攻	2	—	—	—	修士 (法学、経 済学、学 術)	—	—	—	平成10	同上	令和2年度より学生募集停止
人文科学専攻	2	—	—	—	修士 (人文科 学)	—	—	—	平成10	同上	令和2年度より学生募集停止
教育学部 <u>教育学部</u> (修士課程)	2	50	—	100	—	—	—	—	平成5	愛媛県松山市文京町3番	
心理発達臨床専攻	2	10	—	20	修士 (臨床心理 学)	0.50	0.50	令和2	令和2	同上	
特別支援教育専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	—	—	平成17	同上	令和2年度より学生募集停止
教科教育専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	—	—	平成5	同上	令和2年度より学生募集停止
学校臨床心理専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	—	—	平成16	同上	令和2年度より学生募集停止
<u>(専門職学位課程)</u>											
教育実践高度化専攻	2	40	—	80	教職修 士 (専門職)	1.07	1.07	令和2	令和2	同上	
教育実践高度化専攻	2	—	—	—	教職修 士 (専門職)	—	—	—	平成28	同上	令和2年度より学生募集停止
医学部 <u>医学部</u> (博士課程)	—	44	—	150	—	—	—	—	平成10	愛媛県東温市志津川454	
医学専攻 (博士前期課程)	4	30	—	120	博士 (医学)	0.94	1.06	—	平成18	同上	
看護学専攻 (博士後期課程)	2	12	—	24	修士 (看護学)	0.67	0.66	—	平成10	同上	令和2年度より入学定員減(△4)
<u>看護学専攻</u>	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.50	1.50	令和2	令和2	同上	

大学の名称	愛媛大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
理工学研究科 (博士前期課程)	—	273	—	569	—	—	—	—	平成8	愛媛県松山市文京町3番	
生産環境工学専攻	2	62	—	124	修士(工学)	1.34	1.24	—	平成18	同上	
物質生命工学専攻	2	61	—	122	修士(工学)	1.20	1.09	—	平成18	同上	
電子情報工学専攻	2	59	—	118	修士(工学)	1.08	1.16	—	平成18	同上	
数理物質科学専攻	2	40	—	80	修士(理学)	0.71	0.50	—	平成18	同上	
環境機能科学専攻 (博士後期課程)	2	28	—	56	修士(理学)	1.01	1.00	—	平成18	同上	
生産環境工学専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.60	0.33	—	平成18	同上	
物質生命工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.33	0.20	—	平成18	同上	
電子情報工学専攻	3	4	—	12	博士(工学)	0.58	0.50	—	平成18	同上	
数理物質科学専攻	3	4	—	12	博士(理学)	1.08	1.00	—	平成18	同上	
環境機能科学専攻	3	4	—	12	博士(理学)	0.91	1.25	—	平成18	同上	
農学研究科 (修士課程)	2	72	—	144	—	—	—	—	昭和42	愛媛県松山市榑味3丁目5番7号	
食料生産学専攻	2	26	—	52	修士(農学)	0.86	0.88	—	平成28	同上	
生命機能学専攻	2	23	—	46	修士(農学)	0.99	1.04	—	平成28	同上	
生物環境学専攻	2	23	—	46	修士(農学)	0.53	0.60	—	平成28	同上	
連合農学研究科 (博士課程)	3	17	—	51	—	—	—	—	昭和60	愛媛県松山市榑味3丁目5番7号	
生物資源生産学専攻	3	9	—	27	博士(農学・学術)	1.03	0.33	—	昭和60	同上	
生物資源利用学専攻	3	4	—	12	博士(農学・学術)	2.25	2.25	—	昭和60	同上	
生物環境保全学専攻	3	4	—	12	博士(農学・学術)	1.50	0.75	—	昭和60	同上	
大学院全体	—	476	—	1,054	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 教育実践高度化専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	露口健司 <令和2年4月> 博士(教育学)
		エビデンスに基づく教育政策・事業分析 データを活用した学校経営(調査法) 愛媛の教育改革 異校種実習 学校改善の実践的研究 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 学校組織のリーダーシップ 教員研修プログラム開発演習 研究指定校実習 子どもの資質・能力を高める学校経営論 小規模校実習 人材育成演習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専任	教授	白松賢 <令和2年4月> 修士(教育学)
		異校種実習 学級経営の事例研究 教育課題解決のための教育プログラム開発演習 教師のライフヒストリー省察と資質能力開発 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専任	教授	橋本巖 <令和2年4月> 修士(心理学)
		異校種実習 研究指定校実習 子どもの発達と感情 子ども理解の心理アプローチ(調査法) 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専任	准教授	尾川満宏 <令和2年4月> 博士(教育学)
		データを活用した学校経営(調査法) 異校種実習 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 研究指定校実習 小規模校実習 進路指導の実践研究 生徒指導・進路指導の実践研究 地域とともにある学校の経営 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専任	教授	太田佳光 <令和2年4月> 教育学修士
		異校種実習 教材開発高度化演習 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 集団づくりの道徳論的アプローチ 小規模校実習 心の教育の理論と実践 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	露口健司 <令和2年4月> 博士(教育学)
		エビデンスに基づく教育政策・事業分析 データを活用した学校経営(調査法) 愛媛の教育改革 異校種実習 学校改善の実践的研究 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 学校組織のリーダーシップ 教員研修プログラム開発演習 研究指定校実習 子どもの資質・能力を高める学校経営論 小規模校実習 人材育成演習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専任	教授	白松賢 <令和2年4月> 修士(教育学)
		異校種実習 学級経営の事例研究 教育課題解決のための教育プログラム開発演習 教師のライフヒストリー省察と資質能力開発 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専任	教授	橋本巖 <令和2年4月> 修士(心理学)
		異校種実習 研究指定校実習 子どもの発達と感情 子ども理解の心理アプローチ(調査法) 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専任	准教授	尾川満宏 <令和2年4月> 博士(教育学)
		データを活用した学校経営(調査法) 異校種実習 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 研究指定校実習 小規模校実習 進路指導の実践研究 生徒指導・進路指導の実践研究 地域とともにある学校の経営 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専任	教授	太田佳光 <令和2年4月> 教育学修士
		異校種実習 教材開発高度化演習 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 集団づくりの道徳論的アプローチ 小規模校実習 心の教育の理論と実践 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
専他	教授	吉松 靖文 <令和2年4月> 教育学修士	専他	教授	吉松 靖文 <令和2年4月> 教育学修士
		アセスメントの方法と総合的解釈 学校における支援体制 計算・推論困難への対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究1 特別支援教育課題研究2 特別支援教育課題研究3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習1 特別支援教育連携校実習2 特別支援教育連携校実習3 認知機能の困難への心理的対応			アセスメントの方法と総合的解釈 学校における支援体制 計算・推論困難への対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究1 特別支援教育課題研究2 特別支援教育課題研究3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習1 特別支援教育連携校実習2 特別支援教育連携校実習3 認知機能の困難への心理的対応
専他	准教授	苅田 知則 <令和2年4月> 博士(心理学)	専他	准教授	苅田 知則 <令和2年4月> 博士(心理学)
		アセスメントの方法と総合的解釈 運動機能の困難への心理的対応 計算・推論困難への対応 重複障害児の教育実践 特別な教育ニーズへの対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究1 特別支援教育課題研究2 特別支援教育課題研究3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習1 特別支援教育連携校実習2 特別支援教育連携校実習3 読み書き困難への対応			アセスメントの方法と総合的解釈 運動機能の困難への心理的対応 計算・推論困難への対応 重複障害児の教育実践 特別な教育ニーズへの対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究1 特別支援教育課題研究2 特別支援教育課題研究3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習1 特別支援教育連携校実習2 特別支援教育連携校実習3 読み書き困難への対応
専他	教授	小助川 元太 <令和2年4月> 博士(文学)	専他	教授	小助川 元太 <令和2年4月> 博士(文学)
		異校種実習 教材の開発と実践(言語文化) 教材研究の基礎理論(言語文化) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教材の開発と実践(言語文化) 教材研究の基礎理論(言語文化) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	教授	蟹原 進 <令和2年4月> 修士(教育学)	専他	教授	蟹原 進 <令和2年4月> 修士(教育学)
		異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(公民) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 教材研究の基礎理論(公民) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(公民) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 教材研究の基礎理論(公民) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	教授	池野 修 <令和2年4月> MA in ESL(米園)	専他	教授	池野 修 <令和2年4月> MA in ESL(米園)
		異校種実習 教材の開発と実践(第二言語習得) 教材研究の基礎理論(第二言語習得) 研究指定校実習 小学校英語教育の実践研究 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教材の開発と実践(第二言語習得) 教材研究の基礎理論(第二言語習得) 研究指定校実習 小学校英語教育の実践研究 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	教授	吉村 直道 <令和2年4月> 修士(教育学)	専他	教授	吉村 直道 <令和2年4月> 修士(教育学)
		異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(応用数学) 教材の開発と実践(解析) 教材の開発と実践(幾何) 教材の開発と実践(代数) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 教材開発高度化演習 教材研究の基礎理論(応用数学) 教材研究の基礎理論(解析) 教材研究の基礎理論(幾何) 教材研究の基礎理論(代数) 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 授業開発の理論と実際 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(応用数学) 教材の開発と実践(解析) 教材の開発と実践(幾何) 教材の開発と実践(代数) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 教材開発高度化演習 教材研究の基礎理論(応用数学) 教材研究の基礎理論(解析) 教材研究の基礎理論(幾何) 教材研究の基礎理論(代数) 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 授業開発の理論と実際 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	安部利之 <令和2年4月> 博士(理学)	専他	教授	安部利之 <令和2年4月> 博士(理学)
		異校種実習 教材の開発と実践(代数) 教材研究の基礎理論(代数) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教材の開発と実践(代数) 教材研究の基礎理論(代数) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	教授	隅田学 <令和2年4月> 博士(教育学)	専他	教授	隅田学 <令和2年4月> 博士(教育学)
		異校種実習 教材の開発と実践(化学) 教材の開発と実践(物理) 教材研究の基礎理論(化学) 教材研究の基礎理論(物理) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教材の開発と実践(化学) 教材の開発と実践(物理) 教材研究の基礎理論(化学) 教材研究の基礎理論(物理) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	教授	日野克博 <令和2年4月> 修士(体育学)	専他	教授	日野克博 <令和2年4月> 修士(体育学)
		ICT教育の実践研究 異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(スポーツ) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			ICT教育の実践研究 異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(スポーツ) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	教授	藤田昌子 <令和2年4月> 博士(学術)	専他	教授	藤田昌子 <令和2年4月> 博士(学術)
		異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(保育・家庭生活) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(保育・家庭生活) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	准教授	向平和 <令和2年4月> 博士(教育学)	専他	准教授	向平和 <令和2年4月> 博士(教育学)
		異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(生物) 教材の開発と実践(地学) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 教材研究の基礎理論(生物) 教材研究の基礎理論(地学) 研究指定校実習 授業における学習支援と指導法の事例分析 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(生物) 教材の開発と実践(地学) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 教材研究の基礎理論(生物) 教材研究の基礎理論(地学) 研究指定校実習 授業における学習支援と指導法の事例分析 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	准教授	中本剛 <令和2年4月> 博士(学術)	専他	教授	中本剛 <令和2年4月> 博士(学術)
		異校種実習 教材の開発と実践(物理) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教材の開発と実践(物理) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	准教授	大西 義浩 <令和2年4月> 博士(工学)	専他	准教授	大西 義浩 <令和2年4月> 博士(工学)
		IOTを活用した授業実践開発 IOT教育の実践研究 デジタル教材開発とその利用方法 プログラミングを活用した授業実践 異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(電気) 教材研究の基礎理論(電気) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			IOTを活用した授業実践開発 IOT教育の実践研究 デジタル教材開発とその利用方法 プログラミングを活用した授業実践 異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(電気) 教材研究の基礎理論(電気) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	准教授	糸岡(武智) 夕里 <令和2年4月> 修士(体育学)	専他	准教授	糸岡(武智) 夕里 <令和2年4月> 修士(体育学)
		異校種実習 教材の開発と実践(スポーツ) 教材の開発と実践(健康) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教材の開発と実践(スポーツ) 教材の開発と実践(健康) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	准教授	岡本 威明 <令和2年4月> 博士(農学)	専他	准教授	岡本 威明 <令和2年4月> 博士(農学)
		異校種実習 教材の開発と実践(食物・被服) 教材研究の基礎理論(食物) 教材研究の基礎理論(被服) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教材の開発と実践(食物・被服) 教材研究の基礎理論(食物) 教材研究の基礎理論(被服) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
専他	准教授	福井 一真 <令和2年4月> 博士(学校教育学)	専他	准教授	福井 一真 <令和2年4月> 博士(学校教育学)
		異校種実習 教材の開発と実践(デザイン・工芸) 教材研究の基礎理論(デザイン・工芸) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教材の開発と実践(デザイン・工芸) 教材研究の基礎理論(デザイン・工芸) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専	教授	城戸 茂 <令和2年4月> 修士(教育学)	実専	教授	城戸 茂 <令和2年4月> 修士(教育学)
		愛媛の教育改革 異校種実習 学級経営の事例研究 学級経営の理論と実践 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 研究指定校実習 小規模校実習 進路指導の実践研究 生徒指導・進路指導の実践研究 生徒指導と特別活動の実践研究 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			愛媛の教育改革 異校種実習 学級経営の事例研究 学級経営の理論と実践 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 研究指定校実習 小規模校実習 進路指導の実践研究 生徒指導・進路指導の実践研究 生徒指導と特別活動の実践研究 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専	教授	山内 孔 <令和2年4月> 学士	実専	教授	山内 孔 <令和2年4月> 学士
		異校種実習 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 教員の成長と職業倫理 研究指定校実習 子どもの資質・能力を高める学校経営論 子どもの問題行動の事例研究 集団づくりの道徳論的アプローチ 小規模校実習 信頼を構築する学校危機管理 心の教育の理論と実践 生徒指導機能を生かした学習指導 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 教員の成長と職業倫理 研究指定校実習 子どもの資質・能力を高める学校経営論 子どもの問題行動の事例研究 集団づくりの道徳論的アプローチ 小規模校実習 信頼を構築する学校危機管理 心の教育の理論と実践 生徒指導機能を生かした学習指導 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専	教授	池田 哲也 <令和2年4月> 文学学士	実専	教授	池田 哲也 <令和2年4月> 文学学士
		異校種実習 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専	准教授	兵藤 清一 <令和2年4月> 教育学修士	実専	准教授	兵藤 清一 <令和2年4月> 教育学修士
		エビデンスに基づく教育政策・ 事業分析 異校種実習 学校改善の実証的研究 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 研究指定校実習 授業開発の理論と実際 授業研究の開発実践 小規模校実習 地域とともにある学校の経営 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			エビデンスに基づく教育政策・ 事業分析 異校種実習 学校改善の実証的研究 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 研究指定校実習 授業開発の理論と実際 授業研究の開発実践 小規模校実習 地域とともにある学校の経営 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専	教授	高橋 葉子 <令和2年4月> 教育学士	実専	教授	高橋 葉子 <令和2年4月> 教育学士
		異校種実習 学校・家庭・地域の連携論 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 教員研修プログラム開発演習 教材開発高度化演習 研究指定校実習 授業開発の理論と実際 授業研究の開発実践 小規模校実習 人材育成演習 地域とともにある学校の経営 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 学校・家庭・地域の連携論 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 教員研修プログラム開発演習 教材開発高度化演習 研究指定校実習 授業開発の理論と実際 授業研究の開発実践 小規模校実習 人材育成演習 地域とともにある学校の経営 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専	教授	遠藤 敏朗 <令和2年4月> 社会学士	実専	教授	遠藤 敏朗 <令和2年4月> 社会学士
		異校種実習 学級経営の理論と実践 学校・家庭・地域の連携論 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 教材開発高度化演習 研究指定校実習 授業における学習支援と指導法の 事例分析 小規模校実習 心の教育の理論と実践 地域とともにある学校の経営 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 学級経営の理論と実践 学校・家庭・地域の連携論 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 教材開発高度化演習 研究指定校実習 授業における学習支援と指導法の 事例分析 小規模校実習 心の教育の理論と実践 地域とともにある学校の経営 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専	教授	藤堂 浩伸 <令和2年4月> 教育学士	実専	教授	藤堂 浩伸 <令和2年4月> 教育学士
		愛媛の教育改革 異校種実習 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 授業研究の開発実践 小規模校実習 生徒指導・進路指導の実践研究 生徒指導機能を生かした学習指 導 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			愛媛の教育改革 異校種実習 学校改善課題研究1 学校改善課題研究2 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 授業研究の開発実践 小規模校実習 生徒指導機能を生かした学習指 導 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専	教授	掛水 高志 <令和2年4月> 理学士	実専	教授	掛水 高志 <令和2年4月> 理学士
		異校種実習 教員の成長と職業倫理 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3			異校種実習 教員の成長と職業倫理 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3

専任・兼任・兼任の別	氏名 職名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 職名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
実専他	藤原 一 弘 准教授 異校種実習 学級経営の理論と実践 教育課題解決のための教育プログラム開発演習 研究指定校実習 授業改善課題研究 1 授業改善課題研究 2 授業改善課題研究 3 小規模校実習 生徒指導と特別活動の実践研究 連携校実習 1 連携校実習 2 連携校実習 3	実専他	藤原 一 弘 准教授 異校種実習 学級経営の理論と実践 教育課題解決のための教育プログラム開発演習 研究指定校実習 授業改善課題研究 1 授業改善課題研究 2 授業改善課題研究 3 小規模校実習 生徒指導と特別活動の実践研究 連携校実習 1 連携校実習 2 連携校実習 3
実専他	榎木 暢子 准教授 個別の指導計画の作成と実施 子ども理解の心理アプローチ（調査法） 児童生徒・保護者の教育相談実践 社会的自立・就労の指導 重複障害児の教育実践 特別な教育ニーズへの対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究 1 特別支援教育課題研究 2 特別支援教育課題研究 3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習 1 特別支援教育連携校実習 2 特別支援教育連携校実習 3 読み書き困難への対応	実専他	榎木 暢子 准教授 個別の指導計画の作成と実施 子ども理解の心理アプローチ（調査法） 児童生徒・保護者の教育相談実践 社会的自立・就労の指導 重複障害児の教育実践 特別な教育ニーズへの対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究 1 特別支援教育課題研究 2 特別支援教育課題研究 3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習 1 特別支援教育連携校実習 2 特別支援教育連携校実習 3 読み書き困難への対応
実専他	加藤 哲 則 准教授 アセスメントの方法と総合的解釈 社会的自立・就労の指導 聴覚障害児の理論と実践 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究 1 特別支援教育課題研究 2 特別支援教育課題研究 3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習 1 特別支援教育連携校実習 2 特別支援教育連携校実習 3 聞こえの困難への教育的対応	実専他	加藤 哲 則 准教授 アセスメントの方法と総合的解釈 社会的自立・就労の指導 聴覚障害児の理論と実践 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究 1 特別支援教育課題研究 2 特別支援教育課題研究 3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習 1 特別支援教育連携校実習 2 特別支援教育連携校実習 3 聞こえの困難への教育的対応
実専他	井上 洋 一 教授 ICT教育の実践研究 異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践（鑑賞・創作） 教材開発課題研究 1 教材開発課題研究 2 教材開発課題研究 3 教材開発高度化演習 教材研究の基礎理論（鑑賞・創作） 研究指定校実習 授業改善課題研究 1 授業改善課題研究 2 授業改善課題研究 3 授業開発の理論と実践 小規模校実習 連携校実習 1 連携校実習 2 連携校実習 3	実専他	井上 洋 一 教授 ICT教育の実践研究 異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践（鑑賞・創作） 教材開発課題研究 1 教材開発課題研究 2 教材開発課題研究 3 教材開発高度化演習 教材研究の基礎理論（鑑賞・創作） 研究指定校実習 授業改善課題研究 1 授業改善課題研究 2 授業改善課題研究 3 授業開発の理論と実践 小規模校実習 連携校実習 1 連携校実習 2 連携校実習 3
実専他	立松 大 祐 准教授 異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材開発課題研究 1 教材開発課題研究 2 教材開発課題研究 3 研究指定校実習 授業における学習支援と指導法の事例分析 小学校英語教育の実践研究 小規模校実習 連携校実習 1 連携校実習 2 連携校実習 3 教材開発高度化演習 授業改善課題研究 1 授業改善課題研究 2 授業改善課題研究 3	実専他	立松 大 祐 准教授 異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材開発課題研究 1 教材開発課題研究 2 教材開発課題研究 3 研究指定校実習 授業における学習支援と指導法の事例分析 小学校英語教育の実践研究 小規模校実習 連携校実習 1 連携校実習 2 連携校実習 3 教材開発高度化演習 授業改善課題研究 1 授業改善課題研究 2 授業改善課題研究 3
実専他	楠 俊 明 准教授 異校種実習 教材の開発と実践（歌唱） 教材研究の基礎理論（歌唱） 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習 1 連携校実習 2 連携校実習 3	実専他	楠 俊 明 准教授 異校種実習 教材の開発と実践（歌唱） 教材研究の基礎理論（歌唱） 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習 1 連携校実習 2 連携校実習 3

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		
実専他	准教授	秋山 敏行 <令和2年4月> 博士(教育学)	准教授	秋山 敏行 <令和2年4月> 博士(教育学)
		異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(絵画・彫刻) 教材の開発と実践(美術理論・美術史) 教材研究の基礎理論(絵画・彫刻) 教材研究の基礎理論(美術理論・美術史) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3		異校種実習 教科指導力高度化演習 基礎 教科指導力高度化演習 発展 教材の開発と実践(絵画・彫刻) 教材の開発と実践(美術理論・美術史) 教材研究の基礎理論(絵画・彫刻) 教材研究の基礎理論(美術理論・美術史) 教材開発課題研究1 教材開発課題研究2 教材開発課題研究3 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専他	講師	井上 昌善 <令和2年4月> 博士(学校教育学)	講師	井上 昌善 <令和2年4月> 博士(学校教育学)
		異校種実習 教材の開発と実践(地理) 教材の開発と実践(歴史) 教材研究の基礎理論(地理) 教材研究の基礎理論(歴史) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3		異校種実習 教材の開発と実践(地理) 教材の開発と実践(歴史) 教材研究の基礎理論(地理) 教材研究の基礎理論(歴史) 研究指定校実習 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
実専他	講師	玉井 輝之 <令和2年4月> 修士(教育学)	講師	玉井 輝之 <令和2年4月> 修士(教育学)
		ICTを活用した授業実践開発 ICT教育の実践研究 ソフトウェアを活用した校務支援 プログラミングを活用した授業実践 異校種実習 教材の開発と実践(機械) 教材の開発と実践(材料加工) 教材の開発と実践(電気) 教材研究の基礎理論(機械) 教材研究の基礎理論(材料加工) 教材研究の基礎理論(電気) 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3		ICTを活用した授業実践開発 ICT教育の実践研究 ソフトウェアを活用した校務支援 プログラミングを活用した授業実践 異校種実習 教材の開発と実践(機械) 教材の開発と実践(材料加工) 教材の開発と実践(電気) 教材研究の基礎理論(機械) 教材研究の基礎理論(材料加工) 教材研究の基礎理論(電気) 研究指定校実習 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3 小規模校実習 連携校実習1 連携校実習2 連携校実習3
兼任	教授	BOGDAN DAVID RICHARD <令和2年4月> 博士(哲学)(米國)	教授	BOGDAN DAVID RICHARD <令和2年4月> 博士(哲学)(米國)
		教材の開発と実践(英語・言語科学) 教材研究の基礎理論(英語・言語科学)		教材の開発と実践(英語・言語科学) 教材研究の基礎理論(英語・言語科学)
兼任	教授	観音 幸雄 <令和2年4月> 博士(理学)	教授	観音 幸雄 <令和2年4月> 博士(理学)
		教材の開発と実践(解析) 教材研究の基礎理論(解析)		教材の開発と実践(解析) 教材研究の基礎理論(解析)
兼任	教授	金子 省子 <令和2年4月> 博士(教育学)	教授	金子 省子 <令和2年4月> 博士(教育学)
		教材の開発と実践(保育・家庭生活) 教材研究の基礎理論(保育・家庭生活)		教材の開発と実践(保育・家庭生活) 教材研究の基礎理論(保育・家庭生活)
兼任	教授	熊谷 隆至 <令和2年4月> 修士(理学)	教授	熊谷 隆至 <令和2年4月> 修士(理学)
		教材研究の基礎理論(化学)		教材研究の基礎理論(化学)
兼任	教授	原田 義明 <令和2年4月> 芸術学修士	教授	原田 義明 <令和2年4月> 芸術学修士
		教材の開発と実践(デザイン・工芸) 教材研究の基礎理論(デザイン・工芸)		教材の開発と実践(デザイン・工芸) 教材研究の基礎理論(デザイン・工芸)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等		
兼任	教授	佐藤 栄作	兼任	教授	佐藤 栄作
		<令和2年4月> 修士(文学)			<令和2年4月> 修士(文学)
兼任	教授	教材の開発と実践(現在の国語) 教材研究の基礎理論(現代の国語)	兼任	教授	教材の開発と実践(現在の国語) 教材研究の基礎理論(現代の国語)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	佐野 栄	兼任	教授	佐野 栄
		<令和2年4月> 学術博士			<令和2年4月> 学術博士
兼任	教授	教材の開発と実践(地学) 教材研究の基礎理論(地学)	兼任	教授	教材の開発と実践(地学) 教材研究の基礎理論(地学)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	市川 克明	兼任	教授	市川 克明
		<令和2年4月> 芸術学修士			<令和2年4月> 芸術学修士
兼任	教授	教材の開発と実践(鑑賞・創作) 教材の開発と実践(器楽) 教材研究の基礎理論(鑑賞・創作) 教材研究の基礎理論(器楽)	兼任	教授	教材の開発と実践(鑑賞・創作) 教材の開発と実践(器楽) 教材研究の基礎理論(鑑賞・創作) 教材研究の基礎理論(器楽)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	秋山 正宏	兼任	教授	秋山 正宏
		<令和2年4月> 博士(言語学)			<令和2年4月> 博士(言語学)
兼任	教授	教材の開発と実践(英語・言語科学) 教材研究の基礎理論(英語・言語科学)	兼任	教授	教材の開発と実践(英語・言語科学) 教材研究の基礎理論(英語・言語科学)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	松野 尾裕	兼任	教授	松野 尾裕
		<令和2年4月> 博士(経済学)			<令和2年4月> 博士(経済学)
兼任	教授	教材の開発と実践(公民) 教材研究の基礎理論(公民)	兼任	教授	教材の開発と実践(公民) 教材研究の基礎理論(公民)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	森 慎之助	兼任	教授	森 慎之助
		<令和2年4月> 博士(学術)			<令和2年4月> 博士(学術)
兼任	教授	ICT教育の実践研究 ソフトウェアを活用した校務支援 デジタル教材開発とその利用方法 教材の開発と実践(機械) 教材の開発と実践(材料加工) 教材研究の基礎理論(機械) 教材研究の基礎理論(材料加工)	兼任	教授	ICT教育の実践研究 ソフトウェアを活用した校務支援 デジタル教材開発とその利用方法 教材の開発と実践(機械) 教材の開発と実践(材料加工) 教材研究の基礎理論(機械) 教材研究の基礎理論(材料加工)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	青井 倫子	兼任	教授	青井 倫子
		<令和2年4月> 教育学修士			<令和2年4月> 教育学修士
兼任	教授	学校・家庭・地域の連携論	兼任	教授	学校・家庭・地域の連携論
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	石井 浩一	兼任	教授	石井 浩一
		<令和2年4月> 体育学修士			<令和2年4月> 体育学修士
兼任	教授	教材研究の基礎理論(スポーツ)	兼任	教授	教材研究の基礎理論(スポーツ)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	千代田 憲子	兼任	教授	千代田 憲子
		<令和2年4月> 博士(芸術工学)			<令和2年4月> 博士(芸術工学)
兼任	教授	教材の開発と実践(デザイン・工芸) 教材研究の基礎理論(デザイン・工芸)	兼任	教授	教材の開発と実践(デザイン・工芸) 教材研究の基礎理論(デザイン・工芸)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	川岡 勉	兼任	教授	川岡 勉
		<令和2年4月> 博士(文学)			<令和2年4月> 博士(文学)
兼任	教授	教材の開発と実践(歴史) 教材研究の基礎理論(歴史)	兼任	教授	教材の開発と実践(歴史) 教材研究の基礎理論(歴史)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	中西 淳	兼任	教授	中西 淳
		<令和2年4月> 教育学修士			<令和2年4月> 教育学修士
兼任	教授	教材の開発と実践(現代の国語) 教材研究の基礎理論(現代の国語) 教材研究の基礎理論(言語文化)	兼任	教授	教材の開発と実践(現代の国語) 教材研究の基礎理論(現代の国語) 教材研究の基礎理論(言語文化)
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	張 貴民	兼任	教授	張 貴民
		<令和2年4月> 博士(理学)			<令和2年4月> 博士(理学)
兼任	教授	教材の開発と実践(地理) 教材研究の基礎理論(地理)	兼任	教授	教材の開発と実践(地理) 教材研究の基礎理論(地理)
		担当授業科目名			担当授業科目名

専任・兼任の別	職名	氏名	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等		<就任(予定)年月> 保有学位等
兼任	教授	田中 雅人	教授	田中 雅人
		<令和2年4月> 体育学修士		<令和2年4月> 体育学修士
		教材研究の基礎理論(健康)		教材研究の基礎理論(健康)
兼任	教授	東 賢司	教授	東 賢司
		<令和2年4月> 博士(教育学)		<令和2年4月> 博士(教育学)
		教材の開発と実践(書写書道) 教材研究の基礎理論(書写書道)		教材の開発と実践(書写書道) 教材研究の基礎理論(書写書道)
兼任	教授	福田 隆	教授	福田 隆
		<令和2年4月> 体育学修士		<令和2年4月> 体育学修士
		教材研究の基礎理論(スポーツ)		教材研究の基礎理論(スポーツ)
兼任	教授	立入 哉	教授	立入 哉
		<令和2年4月> 修士(教育学)		<令和2年4月> 修士(教育学)
		障害児の聴能の理論と実際 聴覚言語障害への心理学的対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究1 特別支援教育課題研究2 特別支援教育課題研究3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習1 特別支援教育連携校実習2 特別支援教育連携校実習3		障害児の聴能の理論と実際 聴覚言語障害への心理学的対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究1 特別支援教育課題研究2 特別支援教育課題研究3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習1 特別支援教育連携校実習2 特別支援教育連携校実習3
兼任	准教授	安積(山岡) 京子	准教授	安積(山岡) 京子
		<令和2年4月> 修士(芸術学)(ドイツ)		<令和2年4月> 修士(芸術学)(ドイツ)
		教材の開発と実践(歌唱) 教材の開発と実践(鑑賞・創作) 教材の開発と実践(器楽) 教材研究の基礎理論(歌唱) 教材研究の基礎理論(器楽)		教材の開発と実践(歌唱) 教材の開発と実践(鑑賞・創作) 教材の開発と実践(器楽) 教材研究の基礎理論(歌唱) 教材研究の基礎理論(器楽)
兼任	准教授	河村 泰之	准教授	河村 泰之
		<令和2年4月> 博士(情報科学)		<令和2年4月> 博士(情報科学)
		教材の開発と実践(幾何) 教材研究の基礎理論(幾何)		教材の開発と実践(幾何) 教材研究の基礎理論(幾何)
兼任	准教授	魁生 由美子	准教授	魁生 由美子
		<令和2年4月> 博士(社会学)		<令和2年4月> 博士(社会学)
		教材の開発と実践(公民) 教材研究の基礎理論(公民)		教材の開発と実践(公民) 教材研究の基礎理論(公民)
兼任	准教授	原本 博史	准教授	原本 博史
		<令和2年4月> 博士(理学)		<令和2年4月> 博士(理学)
		教材の開発と実践(応用数学) 教材研究の基礎理論(応用数学)		教材の開発と実践(応用数学) 教材研究の基礎理論(応用数学)
兼任	准教授	佐々木 昌夫	准教授	佐々木 昌夫
		<令和2年4月> 教育学士		<令和2年4月> 教育学士
		教材の開発と実践(絵画・彫刻) 教材研究の基礎理論(絵画・彫刻)		教材の開発と実践(絵画・彫刻) 教材研究の基礎理論(絵画・彫刻)
兼任	准教授	細田 宏樹	准教授	細田 宏樹
		<令和2年4月> 理学博士		<令和2年4月> 理学博士
		教材研究の基礎理論(物理)		教材研究の基礎理論(物理)
兼任	准教授	上原 真依	准教授	上原 真依
		<令和2年4月> 修士(文学)		<令和2年4月> 修士(文学)
		教材の開発と実践(美術理論・美術史) 教材研究の基礎理論(美術理論・美術史)		教材の開発と実践(美術理論・美術史) 教材研究の基礎理論(美術理論・美術史)
兼任	准教授	信原 孝司	准教授	信原 孝司
		<令和2年4月> 修士(心理学)		<令和2年4月> 修士(心理学)
		子どもの問題行動の事例研究 児童生徒・保護者の教育相談実証 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3		子どもの問題行動の事例研究 児童生徒・保護者の教育相談実証 授業改善課題研究1 授業改善課題研究2 授業改善課題研究3

専任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	森 貴子 <令和2年4月> 博士(比較社会文化)
		教材の開発と実践(歴史) 教材研究の基礎理論(歴史)
兼任	准教授	青木 亮人 <令和2年4月> 博士(国文学)
		教材の開発と実践(現代の国語) 教材研究の基礎理論(現代の国語)
兼任	准教授	川瀬(片岡)久美子 <令和2年4月> 博士(地理学)
		教材の開発と実践(地理) 教材研究の基礎理論(地理)
兼任	准教授	太田 亨 <令和2年4月> 博士(文学)
		教材の開発と実践(言語文化) 教材研究の基礎理論(言語文化)
兼任	准教授	大橋 淳史 <令和2年4月> 博士(理学)
		教材の開発と実践(化学)
兼任	准教授	竹下 浩子 <令和2年4月> 修士(家政学)
		教材の開発と実践(食物・被服) 教材研究の基礎理論(保育・家庭生活)
兼任	准教授	中曾 久雄 <令和2年4月> 博士(法学)
		教材の開発と実践(公民) 教材研究の基礎理論(公民)
兼任	准教授	中村 依子 <令和2年4月> 博士(理学)
		教材の開発と実践(生物) 教材研究の基礎理論(生物)
兼任	准教授	中野 広輔 <令和2年4月> 博士(医学)
		行動上の問題への対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究1 特別支援教育課題研究2 特別支援教育課題研究3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習1 特別支援教育連携校実習2 特別支援教育連携校実習3 保健医療福祉との連携と医療的対応
兼任	准教授	福富 彩子 <令和2年4月> 修士(音楽)
		教材の開発と実践(歌唱) 教材の開発と実践(器楽) 教材研究の基礎理論(歌唱) 教材研究の基礎理論(鑑賞・創作) 教材研究の基礎理論(器楽)
兼任	准教授	眞鍋 郁代 <令和2年4月> 博士(学術)
		教材の開発と実践(食物・被服) 教材研究の基礎理論(食物) 教材研究の基礎理論(被服)
兼任	准教授	中山 晃 <令和2年4月> 博士(教育学)
		教材の開発と実践(第二言語習得) 教材研究の基礎理論(第二言語習得)

専任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	森 貴子 <令和2年4月> 博士(比較社会文化)
		教材の開発と実践(歴史) 教材研究の基礎理論(歴史)
兼任	准教授	青木 亮人 <令和2年4月> 博士(国文学)
		教材の開発と実践(現代の国語) 教材研究の基礎理論(現代の国語)
兼任	准教授	川瀬(片岡)久美子 <令和2年4月> 博士(地理学)
		教材の開発と実践(地理) 教材研究の基礎理論(地理)
兼任	准教授	太田 亨 <令和2年4月> 博士(文学)
		教材の開発と実践(言語文化) 教材研究の基礎理論(言語文化)
兼任	准教授	大橋 淳史 <令和2年4月> 博士(理学)
		教材の開発と実践(化学)
兼任	准教授	竹下 浩子 <令和2年4月> 修士(家政学)
		教材の開発と実践(食物・被服) 教材研究の基礎理論(保育・家庭生活)
兼任	准教授	中曾 久雄 <令和2年4月> 博士(法学)
		教材の開発と実践(公民) 教材研究の基礎理論(公民)
兼任	准教授	中村 依子 <令和2年4月> 博士(理学)
		教材の開発と実践(生物) 教材研究の基礎理論(生物)
兼任	准教授	中野 広輔 <令和2年4月> 博士(医学)
		行動上の問題への対応 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題研究1 特別支援教育課題研究2 特別支援教育課題研究3 特別支援教育総論 特別支援教育連携校実習1 特別支援教育連携校実習2 特別支援教育連携校実習3 保健医療福祉との連携と医療的対応
兼任	准教授	福富 彩子 <令和2年4月> 修士(音楽)
		教材の開発と実践(歌唱) 教材の開発と実践(器楽) 教材研究の基礎理論(歌唱) 教材研究の基礎理論(鑑賞・創作) 教材研究の基礎理論(器楽)
兼任	准教授	眞鍋 郁代 <令和2年4月> 博士(学術)
		教材の開発と実践(食物・被服) 教材研究の基礎理論(食物) 教材研究の基礎理論(被服)
兼任	准教授	中山 晃 <令和2年4月> 博士(教育学)
		教材の開発と実践(第二言語習得) 教材研究の基礎理論(第二言語習得)

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・昇任のため、中本剛准教授の職名を「准教授」から「教授」に変更。
- ・昇任のため、榎木暢子准教授の職名を「准教授」から「教授」に変更。
- ・昇任のため、加藤哲則准教授の職名を「准教授」から「教授」に変更。
- ・産休・育休のため上田（原本）敏子講師の担当授業科目名を削除。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数
37 名	17 名	15 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【教職大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
21	15	2	0	38	0	24	12	2	0	38	0
(24)	(12)	(2)	(0)	(38)	(0)						
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
21	17	0				21	17	0			
(21)	(17)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
24	12	2	0	38	0	24	12	2	0	38	0
[3]	[Δ3]	[0]	[0]	[0]	[0]	[3]	[Δ3]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
21	17	0				21	17	0			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	1 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{38}{38} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{38} = \boxed{2.63} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
		該当なし							
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし							
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{38} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0 人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<table border="1"> <tr> <td>該当なし</td> </tr> </table>	該当なし
該当なし	

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育実践高度化専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>【新型コロナウイルス感染症対策による計画等の変更】</p> <p>① 遠隔授業の実施に伴う授業計画（シラバス）の変更等</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、文部科学省の通知（「令和2年度における大学等の授業の開始等について」等）を踏まえつつ、令和2年度前学期において、4月8日～4月21日を休講とするとともに、授業については原則遠隔授業としている（5月28日現在）。これに伴い、学生の学修機会を確保し、修学等に不利益を生じさせないため、以下のとおり対応した。</p> <p>○休講期間中は、授業担当教員等が、修学支援システムのメール等を活用して、eラーニング教材の提供、課題等を課すことで、可能な限りの指導を行った。</p> <p>○遠隔授業の実施にあたっては、文部科学省の通知を踏まえつつ、成績評価や開講時期等について弾力的かつ柔軟に対応した。その際、ネット環境の不備等による学生の不利益を生じないよう十分な配慮を行った。</p> <p>○対面での指導が必須であり、卒業・修了あるいは資格取得に必須の実験・実習・演習等については、第2クォーター（6月11日）以降、感染防止対策を徹底的に行い、部局長の許可を得ることを条件に、対面授業を実施できることとした。</p> <p>○一連の対応については、本学ホームページ、学内の学生向け掲示板、全学生への一斉メールによって学生に周知した。また、授業開始後はシラバスの変更等について学生に対して丁寧に説明した。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>令和2年4月1日より、「教育学研究科運営会議【関連規程：愛媛大学大学院教育学研究科運営会議規程】」を教育学研究科の各専攻に設置した。教職大学院には「教育実践高度化専攻運営会議」が設置された。委員は学部長指名であり、専攻長1名、コース代表8名（4コース×2名ずつ）、実務家教員8名の計17名によって会議は構成されている。</p> <p>昨年度までは、当該会議の前身であった教職大学院運営会議終了後に、FDミニワークショップをほぼ毎回の頻度で開催していた。令和2年度も継続する予定である。第1回は新型コロナウイルス感染症対策で中止となった。</p> <p>愛媛大学大学院教育学研究科運営会議規程（抜粋） （設置）</p> <p>第1条 愛媛大学大学院教育学研究科（以下「研究科」という。）の次の各号に掲げる専攻に、研究科の各専攻の円滑な運営を図るため、運営会議を置く。</p> <p>(1) 心理発達臨床専攻 (2) 教育実践高度化専攻 （審議事項）</p> <p>第2条 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 組織及び施設の管理運営に関すること。 (2) 教員の人事に関すること (3) 教務及び学生に関すること (4) 自己評価及び外部評価に関すること。 (5) 愛媛大学大学院教育学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）及び愛媛大学教育学部運営企画会議の提案事項に関すること (6) 研究科長の諮問事項に関すること (7) その他専攻の運営上必要な事項 （組織）</p> <p>第3条 運営会議は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。</p> <p>(1) 専攻長 (2) 心理発達臨床専攻にあつては、当該専攻を担当する教授、准教授及び専任の講師、教育実践高度化専攻にあつては、リーダーシップ開発コース、教育実践開発コース及び特別支援教育コースの教員から各2人並びに教科領域コースの教員から4人</p>

(3) その他運営会議が必要と認めた者
(議事)

第4条 運営会議は、専攻長が招集し、その議長となる。

2 専攻長に事故があるときは、専攻長があらかじめ指名する者が、その職務を代行する。

3 運営会議は、構成員の過半数が出席しなければ議事を開くことはできない。

4 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(構成員以外の者の出席)

第5条 議長が必要と認めるときは、運営会議の同意を得て構成員以外の者を運営会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(開催)

第6条 運営会議は、必要に応じて随時開催する。

(報告)

第7条 運営会議は、研究科委員会等に検討の経過報告を行うものとする。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は、運営会議が定める。

附 則

1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2 愛媛大学大学院教育学研究科専修等主任会内規(平成18年3月20日制定)は、廃止する。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

令和2年3月19日に、新入生ガイダンス準備のための予備会議を開催した(参加者16名)。公式の第1回会議は、令和2年4月16日に開催した(参加者17名)。なお、教職大学院の実習マネジメントについては、同運営会議の下に実習チーム(専攻長と17名の実務家教員によって構成)を配置し、迅速に対応している。

令和2年4月21日に開催された「ICT教育の実践的研究」をZoom公開授業として設定し、12名の教員の参加が得られた。協議については、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できていない。

c 委員会の審議事項等

教育実践高度化専攻運営会議では、組織及び施設の管理運営、教員の人事、教務及び学生に関する事、自己評価及び外部評価に関する事、研究科委員会及び教育学部運営企画会議の提案事項、研究科長の諮問事項に関する事、その他、専攻の運営上必要な事項等について審議を行っている。FD関係については、教育学部・教育学研究科の教務委員会と連携して進めていく予定である。

② 実施状況

a 実施内容

教育学部・教育学研究科と連携したFD事業

- ・ 授業成果報告書の作成と公開
- ・ 研究倫理セミナー
- ・ 教育学部主催のFDワークショップ

教職大学院のFD事業

- ・ DF対応授業評価の実施(年間2回 7月と2月に実施)
- ・ 新入教員に対する科研費申請方法の説明

c 開催状況(教員の参加状況含む)

令和2年4月には、教育学部主催のFDワークショップが開催された。Zoom活用法をテーマとするFDワークショップであり、教育学部・教育学研究科で約80名の教員が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教職大学院の教員は、ほぼ全員が、上記FDワークショップに参加しており、Zoomを活用した同期型遠隔授業、Moodle3.5を活用した非同期型遠隔授業の円滑な実施ができています。ICT機器が苦手なベテラン教員に対しては、技術科教員をはじめとするICTに強い教員の支援体制を構築している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

全教職大学院生を対象としたFDワークショップを年間2回(7月と2月)に開催し、その際に各授業のアンケートを実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教職大学院オリジナルWEBサイトに、2020年度事業報告として掲載予定である。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

教育課程連携協議会を平成31年4月に設置

委員構成

- (1) 教職大学院専攻長
- (2) 研究科長が指名する教職大学院専任教員 2人
- (3) 愛媛県教育委員会義務教育課長
- (4) 愛媛県教育委員会高校教育課長
- (5) 愛媛県総合教育センター所長
- (6) 松山市教育研究センター所長
- (7) 愛媛県教育会理事長
- (8) 愛媛県教育研究協議会会長
- (9) その他研究科長が必要と認める者

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

年1回（2～3月）

c 委員会の審議事項等

産業界等との連携による授業科目の開発及び開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項・産業界等との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・ Society5.0時代における教員養成（カリキュラム）の在り方について
- ・ 愛媛県における教育リーダー養成の在り方について

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

・既に、令和2年度新カリキュラムにおいて「ICT教育高度化プログラム」を開設しており、同委員会においても評価を頂いている。GIGAスクールを牽引する人材を育成するために、院生の実習校をGIGAスクールの要件を備えた学校とする方向で、実習校配置を進めている。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

・リーダー養成については、今後、教頭試験合格者の派遣を前提とした、校長養成のためのカリキュラム・実習へと変革を進める方向で議論を進めている。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学教職大学院は、確かな理論と優れた実践的指導力を備えた学校管理職候補人材、ミドルリーダー人材、そして即戦力人材の養成を通して地域に貢献することを基本理念としており、愛媛県教育委員会が教員育成指標において求める実践的指導力・組織力・信頼構築力・人間力を備えた教員養成を目的としている。教職としての高度の実践力・応用力を備えた高度専門職人材としての教員を、具体的には、目的に応じて以下のようにコース別で養成する計画である。リーダーシップ開発コースでは、愛媛県の教員育成指標を踏まえ、地域の教育改革を主導する学校管理職候補人材を養成する。教育実践開発コースでは、多様で複雑な教育課題に対応できる即戦力人材及びミドルリーダー人材を養成する。教科領域コースでは、高度な教材解釈力と授業力を持つ即戦力人材及びミドルリーダー人材を養成する。特別支援教育コースでは、特別支援教育に関する高度な専門性を持つ即戦力人材及びミドルリーダー人材を養成する。これらの設置目的や人材像については、愛媛大学大学院教育学研究科案内2020、令和2年度愛媛大学大学院教育学研究科学生募集要項、愛媛大学教職大学院オリジナルWEBサイトにおいて公開されている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和2年5月1日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和2年8月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

令和元年度に一般財団法人教員養成評価機構の評価を受審済、5年以内に再度受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。